

2017-2020 年度 JAL グループ中期経営計画・2017 年 3 月期決算説明会
主な質疑応答（要旨）

■国際線について

Q1：FY2017 の国際線単価の想定は？

A1：FY2016 対比 8.5%増加を想定している。燃油サーチャージの影響と JAL SKY SUITE の導入による純単価増を想定している。

Q2：海外需要の取り込みについて

A2：成長率が期待される海外発の高イールドを積極的に取り込み、FY2020 には国際線における海外発旅客数を、全体の 50%程度までに引き上げたいと考えている。

■費用について

Q3：FY2017 の利益増減推移で戦略的支出に旅客基幹システム刷新とあるが、FY2018 もシステム刷新は費用増となるのか？

A3：旅客刷新システムは今年 11 月にカットオーバーを予定しており、215 億円の支出のうち過半が旅客基幹システムに関わる支出である。減価償却費は来期以降通年化で増えるが、また、円滑なカットオーバーのための一時的な人件費増は今期のみである。

Q4：FY2017 の整備費の増加理由は？

A4：787 型機を中心にエンジン整備費の増加は約 100 億円。一方、IT 技術などを活用し整備費の効率化を進めることで、FY2020 の水準は FY2017 並みとなる想定です。

■ユニットコストについて

Q5：今後のユニットコストの想定は？

A5：「売上の最大化・経費の最小化」と「筋肉質経営」の実現により、ユニットプロフィットの極大化に努めます。FY2018 以降はエンジン整備費以外の整備費効率化・旅客基幹システム移行分の人件費の減少などを想定しており、ユニットコストの分母である ASK の伸びもユニットコストの抑制に寄与する。

以上